

2) 本殿・拝殿・幣殿・回廊・中門など

もともとは今の京都府相楽郡井出町の辺りで創建されたのですが、その後約50年の間に奈良へ遷り、さらに平安遷都とほぼ同時期には現在の地へ遷されました。

祭神は

酒解神 (サカトケノカミ)
大若子神 (オオワクコノカミ)
小若子神 (コワクコノカミ)
酒解子神 (サカトケコノカミ)



梅宮大社の本殿

酒解神の御子、酒解子神こと木花咲耶姫命 (コノハナサクヤノヒメノミコト)

は大若子神こと瓊々杵尊 (ニニギノミコト) と一夜の契りで、やがて小若子神こと彦火出見尊 (ヒコホホデミノミコト) が御生まれになりました。

そこで姫は歓喜して狭名田の稲をとって天甜酒を造り、これを飲まれたのです。ということで、ここ梅宮大社は安産と造酒の神として古くから崇められています。

醍醐天皇の御代に定められた延喜式では、国家の制度にのっとり、名神大社というもっとも高い格式に置き、案上の官幣と呼ばれる最高の儀礼をもってまつられることになりました。

更に日本で特選された二十二の大社の中に加えられ、明治の初めには官幣社に列せられました。

現在は本殿、拝殿、幣殿、回廊、中門などで構成されますが、主要建造物は元禄11年、火災で焼失し、元禄13年(1700)再建されたものです。

本殿、若宮社、護王社、楼門、拝殿は昭和58年4月「京都府登録文化財」に指定されました。

3) 梅宮大社に祀られている神様

梅宮大社の境内に足を踏み入る際に、まず目に付くのが楼門上の酒樽の数々。梅宮大社に、ご祭神として祀られる山の神様である大山祇神(オオヤマズミノカミ)のもう一つの性格である、酒の神様としての一面に関連しています。



山の神である大山祇神には、木と花の女神である木花咲耶

姫命(コノハナサクヤヒメノミコト)という娘がいて、同様に梅宮大社に祀られています。木花咲耶姫命は天孫降臨を行い天皇家の祖先となった瓊々杵尊(ニニギノミ